

基調講演



テーマ

「水から考える 富山の人のくらしと自然」

講師 朴木 英治氏 (富山市科学文化センター 主幹学芸員)

富山の水はなぜおいしい？

地球上で私たちが飲める水はほんのわずかです。海水が蒸発して雲となり雨や雪を降らせ、川になり海へそそぐ。このような循環の中で、飲み物として私たちの口にも入ります。なかでも「おいしい」と言われる富山の水が、どのようにしてできるのかを調べるのが私の研究の目標です。水を調べるキーワードは〈水はさまざまなものを溶かす性質がある〉〈水は化学反応を起こす媒体になる〉〈水は地球上を循環している〉ということ。そして水からくらしや自然を考えると、①同じ場所で違う時の水を比べる②違う場所の水を比べる③溶けている物質と生き物の関係を考えるなどの方法があります。



富山の環境と 酸性雨のかかわり

私たちは約20年前から県内5か所で酸性雨について調べています。最初は場所ごとに大きく異なっていたデータが、最近はそろってきました。これは工場から出るイオウ酸化物など酸性雨の原因となる物質が空気中から減り、各地の環境が似てきたことを示しています。

立山の標高の違う場所で調べると、美女平では富山の平野部からの影響をもっと標高の高い室堂では遠く中国大陸の影響を受けた酸性雨が降っています。また立山の限られた場所で木が枯れることについて調べると、そこを霧が通っていました。おそらく平野部で発生した霧に含まれる酸性物質の影響で枯れるのだろうと考えられます。

水からみえるいろいろなこと

川の水は雨や季節によって状態が変化しますが、谷間を流れる谷水は年中同じような状態を保っています。理由は研究中ですが、土の中で水が平均化される何かおもしろい仕組みがあるのかもしれませんが。また立山の水の成分を調べてみると、火山活動や江戸時代の終わりに起きた大地震の影響がうかがえます。一方、富山の市街地を流れる川の水を20年前・10年前と比べると汚れが少なくなっています。これは下水道の整備が進んで川に流れ込む生活排水が減ったからです。このように水を通して、人のくらしや自然の様子がみえてきます。



豊かな自然がはぐくむおいしさ

おいしい地下水には、水温が10～14℃、酸性度は微酸性などの条件があります。富山では酸性雨が降っても、地中30センチほどしみこむと、もうおいしい条件を満たす水になります。その理由を研究すれば、富山の水のおいしさの秘密もわかるのではないかと思います。富山の水のおいしさと自然の深いかかわりを、これからも研究していきたいと思えます。同じようにみえる水も、いろいろな角度から調べることが大切です。みなさんもそれぞれの視点で、水を調べ続けてくれることに期待しています。



朴木 英治氏

プロフィール

研究の領域：降水、陸水、湖沼水、地下水など海洋以外の水に関する研究

現在の研究テーマ：立山における標高別の酸性雨の違いと原因物質の起源に関する研究

呉羽丘陵、射水丘陵の谷水の水質形成機構と窒素飽和現象の解明に関する研究

昭和28年 射水郡大門町(現射水市)生まれ

昭和53年 富山大学工学部 工業化学科卒業

同年 富山市科学文化センター準備事務局採用以降 同センター専門職員として勤務

平成14年 金沢大学大学院自然科学研究科地球環境科学専攻 博士後期課程修了、

「北陸地域の酸性物質の環境動態解析」で博士(薬学)取得